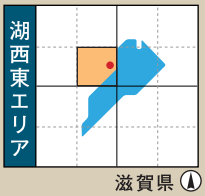
史跡

県指定

鵜川四十八躰仏（うかわしじゅうはったいぶつ）

高島町鵜川　昭和36年4月26日指定



景勝地、白髭神社の背後の山が琵琶湖に迫る明神崎に、四十八躰仏と呼ばれる石仏群が並んでいます。近江半国の守護にして佐々木六角氏最後の名主となった六角義賢が、亡き母の追善のために安置したと伝えられる石の仏達は、様々な表情を浮かべ、琵琶湖を見つめています。

当時のできごと	
1553年	長尾景虎（上杉謙信）上洛
1570年	六角義賢、信長に降伏
1624年	天海、秀忠の命で寛永寺を創建する



四十八躰仏全景（初秋）



雪の四十八躰仏

概説

白髭神社から国道と別れ、旧西近江路を北上した丘陵上にある石仏群が、鵜川四十八躰仏です。像は、すべて定印（じょういん）を結んだ阿弥陀如来座像で、像高は1.5m前後、花崗岩（かこうがん）の塊から丸彫りしています。古くから露坐していたため、風化が進み、表面は摩滅してきていますが、室町時代の作風を示す容貌や、衣文の彫り出し方の技法から、全て同時期に作られたと考えられます。なお、同じ作風を示す大日如来像他4体の石仏が、安曇川町田中の玉泉寺に伝わります。

48体のうち13体は、大津坂本の慈眼堂にいつの頃か移され、2体は近年盗難に遭い、現在33体が残ります。

四十八躰仏の建立者

四十八躰仏は、観音寺城（学習シートNo.030）の城主で、近江半国の守護であった六角義賢（承禎）が、天文22年（1553）に亡き母の供養のために建立したと伝えられています。湖東を本拠地とする義賢が、湖西のこの地にどうして仏を造立したのかその事情は明らかではありませんが、母が湖西の出身であったこと、また、安曇川町の玉泉寺に葬られたと伝えられることなどが関係するのかも知れません。あるいは、観音寺城からは日の沈む西にあたり、西方浄土への信仰心がこの地を選ばせたのかも知れません。



慈眼堂の石仏



鵜川四十八躰仏



慈眼堂の石仏

移動した13体

大津市坂本の慈眼堂には、鵜川から運ばれた13体の石仏があります。慈眼堂は、徳川家康、秀忠、家光の3代に仕え、幕府の顧問として活躍した天海僧正（慈眼大師）の廟所です。天海は、織田信長の比叡山焼き討ち後の復興に努め、現在の延暦寺の寺観を再興しました。

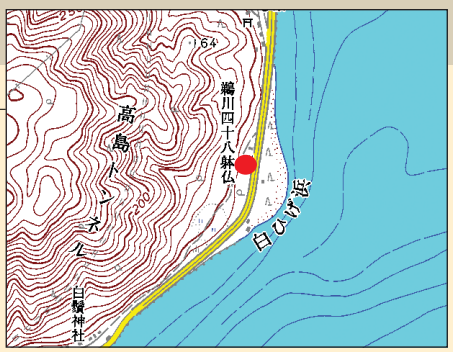
慈眼堂は家光の命で建立されたもので、その境内には、江戸時代以降の天台座主の墓や、家康、紫式部などの供養塔が立ち並び、その最上段に鵜川から運ばれた13体の石仏が安置されています。

関連する文化財

滋賀院門跡（里坊庭園）（大津市）	学習シートNo.077
観音寺城跡（安土町・五個荘町）	学習シートNo.030
白髭神社（高島町）	鵜川四十八躰仏の所在する丘陵下にある古社。猿田彦命を祀る。現在の社殿は豊臣秀頼により整備されたもの

もっと深く知りたい

高島町歴史民俗資料館　☎0740-36-1553　高島郡高島町鴨2239



鵜川四十八躰仏へのアクセス　JR湖西線　近江高島駅下車

【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月